著者小川進氏への大坂弁護団からの指摘

大坂裁判弁護団主任弁護人

弁護士西村正治

２０２０年刊『ＡＩ裁判』と２０２６年刊『ＡＩ革命の光と闇』の大坂正明氏について書かれた部分の誤りにつき、以下の通り指摘します。

１　完全な人まちがい

前提として指摘しておかなければならないことですが、大坂裁判で証拠とされているすべての写真の中に、大坂さんだと特定されているものは皆無であり、それらしいのではないかと言われるものさえも何一つないということです。警察・検察の定説として、証拠写真の中に大坂さんが写っているものは全く見つからないということなのです。

しかるに、２０２０年本では、警察撮影の証拠写真中の人物を大坂さんであると決めつけるところから始まっています。その根拠は全く説明もされていません。１５４ページにその人物を摘示していますが、これは完全な人まちがいです。この写真の人物は、当時Ｙ大学学生のＯさんで、白洋舎から撮影された写真を拡大したものから大勢の警察官が人物特定したものがあるのですが、それによっても「Ｏ」と特定されています。Ｏさんは私も会ったことがあるのですが歩容に特徴があり、知っている人にはすぐわかるのです。歩容認証を行えば歴然です。大坂さんとは似てもいません。

２０２６年本８２ページで、初めてこの人物特定の根拠らしきことを書いています。「東急本店前の画像と大坂さん逮捕時の画像を比較し、身長、座高、全頭高が完全に一致した」ということのようです。全くの別人、であることが確定していますので、この「完全に一致」ということをどう総括されるのでしょうか。お聞きしたいと思います。

２　壮大な誤解・・・「中核派写真班」なるもの

２０２０年本１６３ページに、中核派の３名の写真班がいたと断定して、その写真だというものまで掲載しています。しかし、これは全くの誤解そのものです。

３名のうち左の写真の人物は、ＴＢＳのニュースカメラマンです。社名の入ったヘルメットをかぶり、別角度の写真では左腕に報道の腕章をつけているのがわかり

ます。使っているのは動画のビデオ撮影機材です。この人の撮影した映像がＴＢＳのニュースで流れ、それを警視庁がテレビ画像から撮影して、それが星野裁判で証拠とされています。

真ん中の写真の黒いスーツ姿の男は、白洋舎の社員のMさんと思われます。１１月２０日付の警察官調書（目撃者供述）があります。写真マニヤで当日も写真機を準備して待っていて、交番前に飛び出して撮影したそうです。

右の写真の若い男は、商店街の近所の食堂に勤めるＴさんです。警察官調書、検察官調書を取られ、検事側証人として星野裁判でも証言しています。

このように３名は中核派と何の関係もない人たちであり、中核派写真班だというのは壮大な誤解です。

そして、写真班の撮影した写真が多数あるはずなのに隠しているなどといって、２０年本・２６年本で弁護活動に対する誹謗中傷の内容を書き連ねていることは到底看過できません。

３　小さくても見過ごせない間違い

別表で指摘する通り、数え切れないくらい間違いがあるのですが、その中でも、小さくても見過ごせない間違いがあります。

それは２０２６年本の８２ページ等にあるＩＳ氏のことです。神山町の現場で、あたかもＩＳ氏が虎部隊として犯行に関わったかのような記述です。しかし、ＩＳ氏は事件当日前橋におり、１４闘争にまったく参加していません。また警察の側もＩＳ氏が闘争に参加したのではないかとは一切考えておりません。これはとんでもない名誉棄損の記述にほかなりません。なお、８２ページではあたかもＫＲの証言に基づく内容のように書かれていますが、ＫＲはＩＳ氏のことについてはまったく何も触れていません。また、ＫＲは、大坂さんのことを全く知らず、大坂さんに関することは一切供述していませんので、その点でもこのあたりの記述は完全に間違いです。

以上、とりあえずの指摘です。

以上